



与野南中学校 コミュニティ・スクールだより

No.3

令和7年度の第3回学校運営協議会が、令和8年2月19日（木）9時15分から与野南中学校の校長室で行われました。

< 第3回学校運営協議会委員 >

会 長	玉置悌助	（学校運営協議会会長）
副会長	町田守正	（学校運営協議会副会長、青少年育成与野南地区会会長、大戸北第2自治会会長）
委 員	佐々木克己	（大戸公民館長）
委 員	松奇葉子	（鈴谷第2自治会常任理事）
委 員	山本光雄	（中央区民生委員・児童委員南地区協議会代表）
委 員	町田忠夫	（中里自治親和会会長）
委 員	溝口景子	（青少年育成与野南地区会幹事）
委 員	阿部達哉	（さいたま市立与野南中学校 P T A会長）
委 員	寺尾瑩麗	（さいたま市立与野南中学校 P T A副会長）
委 員	正田真由美	（さいたま市立与野南中学校 校長）
委 員	金子要一	（さいたま市立与野南中学校 学校地域連携コーディネーター）
欠席 委 員	高橋 昌秀	（中央区区民生活部長）
委 員	佐和 聖子	（さいたま市立与野南中学校 P T A副会長）
委 員	宮崎 祐介	（さいたま市立与野南中学校 教務主任）

< 第3回学校運営協議会次第 >

- (1) 本日の流れの説明
- (2) 校長あいさつ
- (3) 開会宣言
- (4) 授業参観
- (5) 学校の運営状況等についての評価
 - ・令和7年度学校関係者評価 結果まとめ
 - ・令和7年度学校評価まとめ
- (6) 今年度のふりかえりと次年度の見通しについて
 - ・令和7年度学校自己評価システムシート

- ・令和8年度年間行事予定
- (7) 次年度の学校運営に関する基本的な方針（案）についての仮承認
- ・令和8年度学校経営方針
- (8) 意見の申出
- (9) 熟議：地域でできるあいさつ運動のアイデア
- (10) 本日のまとめ
- (11) 閉会宣言
- (12) 諸連絡

<第3回学校運営協議会の内容>

- (1) 本日の流れの説明
- (2) 校長あいさつ
- (3) 開会宣言（学校運営協議会会長）
- (4) 授業参観 2年生の授業を中心に参観

- (5) 学校の運営状況等についての評価

【学校運営状況等の評価（学校関係者評価）】

- 学校スローガン「力がつく学校、力のある学校、感動いっぱい与野南中」の実現について
 - ・「そう思う」が非常に多く、特に合唱コンクール等の行事が高く評価されている。
 - ・生徒は楽しく学校生活を送っており、あいさつや落ち着いた生活態度が見受けられる。
- 学習指導とICT活用
 - ・ICT機器の活用やTDLの手法が定着し、教師の授業改善が進んでいる。
- 規範意識とマナー
 - ・生徒は全体的にルールやマナーを守って行動している。一方で、教職員の校舎敷地外での喫煙について厳しい意見が寄せられた。
- 豊かな心と健やかな体の育成
 - ・「心を潤す4つの言葉」の実践は概ね良好だが、あいさつ運動の活性化が今後の検討課題となっている。
 - ・「ケヤキ並木清掃」などの地域活動への生徒参加人数が昨年より増加した。
- 環境整備と情報発信
 - ・校内の清掃・環境美化は「きれいな環境が整っている」と肯定的な評価を得た。
 - ・学校だよりやホームページを通じた情報発信は、全設問中で最も高い評価を得た。
 - ・地域住民へのより深い情報発信や、生徒会と地域が直接話し合う機会の増設が課題である。

【令和7年度 学校評価のまとめ】

- 向上した点
 - ・「楽しく学校生活を送れている」という回答が伸びている。
 - ・ルール・マナーの遵守、および清掃活動への取り組み数値が大幅に上昇した。
 - ・親身に悩みを聞くいじめ相談体制や、教員が生徒の良さを伸ばしていると感じる数値も向上した。
 - ・スクリレの導入で、保護者・教職員間の情報共有が大幅に改善され、家庭での会話増加に寄与した。
- 今後の課題
 - ・委員会活動に対する生徒の自己評価がやや低下しており、活性化が必要である。
 - ・学校の安全・安心に関する項目で、生徒の肯定回答がやや低下した。
 - ・地域のボランティア活動への参加意識が一部低下した（与野南小学校の避難訓練中止等の影響）。

(6)【学校自己評価システムシートによる振り返り】

●学びの質の向上

- ・テスト後の復習を徹底した結果、中間・期末テストの数値が向上した。
- ・「研究推進委員会」を中心に TDL の研究を深め、11 月に研究発表を実施した。
- ・生徒の 93%が「周囲と話し合っている」と回答し、協同的な学びが浸透している。
- ・テスト復習の継続、および生徒自身が「学び方を学ぶ」姿勢のさらなる改善が課題である。

●子どもの発達や心のサポート

- ・全学期でのアンケート実施と、その後の迅速な個人面談により、組織的な教育相談体制を構築した。
- ・生徒指導について教職員の 100%が肯定的回答をしており、個々への関わりが深まった。
- ・不登校・別室登校支援として、「Sola るーむ」やオンライン授業を活用し、個々の状況（起立性調節障害等）に合わせた柔軟な支援を実施した。
- ・保護者から「支援内容がわからない」という回答が 20%あるため、より丁寧な周知が課題である。
- ・教科におけるオンライン対応の検討が必要である。

●地域と共にある学校づくり

- ・学校運営協議会に生徒会役員が参加し、地域住民と直接交流する機会を設けた。
- ・民生児童委員等との連絡会を年 2 回に増し、情報交換を密にした。
- ・ホームページへの行事予定や給食メニューの掲載を充実させ、保護者の要望に応えることが課題。

●教育環境の整備

- ・校内会計監査を每学期実施し、事務処理の適正化を図った。
- ・Forms を活用した月 1 回の安全点検により、施設修繕の迅速化を実現した。
- ・ハラスメント防止および不適切な指導の未然防止研修を教職員向けに実施した。
- ・SNS トラブル防止のため、1 学期に安全教室を実施した（今年度発生件数は 6 件）。

●教職員のキャリア形成

- ・TDL（単元自由進度学習）を全教科で実施し、教員相互の授業公開を推進した。
- ・電話対応時間の制限や「スクリレ」導入により、印刷・連絡業務の時間を削減し、年休取得状況は比較的良好である。
- ・計画的な年休取得のさらなる促進が課題である。

(7)【令和 8 年度グランドデザイン案】

- ・さいたま市の教育が目指す人間像は、「全ての子供の多様で豊かな可能性を開発させるための教育の実現を目指して」と 4 つのキーワードが載っている。
- ・学校課題研究は、2 年間の研究委嘱が終わり、TDL をどのように続けていくかを検討中である。

(8) 意見の申出 なし

(9) 熟議：地域でのあいさつ運動

- ・自治会の掲示板（18 か所）へのポスター掲示や、地域の行事での生徒のスピーチが効果を上げている。
- ・「知らない人に声をかけるのが怖い」という風潮を打破し、誰にでも挨拶ができる雰囲気醸成したいという共通認識が確認された。
- ・「地域を支える人材」は、まず親世代が地域活動へ参加することが重要であるとの意見が出された。

(10) 本日のまとめ（学校運営協議会副会長）

今年度の振り返りで出た来年度の課題を、頑張ってくださいたいです。学校運営協議会で、できるだけ子供とのコミュニケーション、会話、その機会を増やしていただきたいと思いました。

(11) 閉会宣言（学校運営協議会会長）

(12) 諸連絡